

T-O1 の結果概要 地区名：T-N 31 林班に小班 2012 年 6 月 11 日/2019 年 7 月 25 日調査

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	斜面中部	北	1 1	2 2	2012 年 3.1 2017 年 8.6	累積 3.0 累積 3.4	シカ道 シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	48 /200 m ²	24.7 m ² /ha	39/200 m ² 食痕:10 26%		28 /200 m ²	23/51 45%(0%)	
	34 /200 m ²	25.2 m ² /ha	21/200 m ² 食痕:8 38%(19%)		19 /200 m ²	15/34 44%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	20 /200 m ²	-/20 0%		39	39%・60・ 95%	108 ・ 0.45	
	15 /200 m ²	1/15 7%(0%)		40	33%・81・ 0%	94 ・ 0.46	

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり	樹皮剥 (本)
キハダ	2	1,472			
シラカンバ	1	1,263			
シナノキ	4	1,052	3	1	1
アズキナシ	1	430			
イタヤカエデ	3	313	2		
総計	34	5,046	21	8	15

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
イタヤカエデ	5	1
サワシバ	4	
アオダモ	2	
シナノキ	2	
ホオノキ	1	
総計	15	1

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.27998	33	81	0
オンダ	7	0.0333	6	46	0
サツボロスゲ	17	0.02277	7	25	1
ツタウルシ	7	0.0224	9	22	1
ゴンゲンスゲ	4	0.02233	13	17	0



清水町の尾根に近い落葉広葉樹の二次林に設定している。キハダ、シナノキやイタヤカエデなど優占する。直近の SPUE は 8.6 と高く、増加傾向である。下枝本数はほぼ半減し(トドマツを除く)、新規の食痕は 38% と高めである。夏季食痕も 19% あり、夏季の利用も見られる。樹皮剥ぎは 44% で前回とほぼ同様で、新しい痕跡は見られなかった。

稚樹はアオダモやシナノキなど 15 本が生育するが、食痕はわずかである。林床はクマイザサが優占し、密度は高くないものの、シカの食痕は前は高かったが、今回は確認されていなかった。エゾシカの影響が緩やかに蓄積している。

T-O2 の結果概要

地区名：T-N

40 林班ひ小班

2012 年 6 月 12 日/2019 年 7 月 25 日調査

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡		
広葉樹林		斜面上部		南西	1	2	2012 年	3.9	累積	2.1	なし
					1	2	2017 年	4.0	累積	2.4	シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)				小径木 5cm 未満		樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	46 /200 m ²	40.4 m ² /ha	32/200 m ² 食痕:5 16%				21 /200 m ²		10/51 20%(0%)		
	40 /200 m ²	45.8 m ² /ha	26/200 m ² 食痕:10 38%(27%)				12 /200 m ²		14/38 37%(13%)		
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率			総被度・現存量 m ³ /m ²	
	4 /200 m ²	1/4 25%				10	93%・95・20%			97 ・ 0.90	
	2 /200 m ²	2/2 100%(0%)				18	89%・119・0%			92 ・ 1.10	

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
ミズナラ	13	6,251	8	3	
ウダイカンバ	3	1,429			
ケヤマハンノキ	1	774	1		
アオダモ	17	459	12	6(5)	14
ダケカンバ	2	200	1	1	
総計	40	9,156	26	10(5)	14

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
アオダモ	2	2
総計	2	2

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.08353	89	119	0
ケヤマハンノキ	1	0.0086	1	172	0
ノリウツギ	2	0.00676	0.4	170	0
ウスノキ	2	0.00195	1	20	2
ミズナラ	3	0.00174	0.4	49	2



清水町の尾根に近い落葉広葉樹の二次林に設定している。直近の SPUE は 4.0 で前回時とほぼ同様である。下枝本数や小径木は減少しており、新規の食痕は 38%と高めで、夏季の食痕も 27%と夏季の利用も見られる。樹皮剥ぎは 37%で見られ、新規も 13%と多いが、これらは全て嗜好性の高いアオダモである。

稚樹は元々少なかったが 4 本から 2 本で減少し、全て食痕が見られた。林床はクマイザサが前回よりもやや減少したが 89%と密生しているが、前回見られたシカの食痕は確認されなかった。エゾシカの影響が少しずつ蓄積している。

T-O4 の結果概要 地区名: T-N 280 林班こ O1 小班 2012 年 6 月 13 日/2019 年 7 月 24 日調査

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	斜面下部	北東	1 1	2 2	2012 年 9.4 2017 年 1.3	累積 2.9 累積 2.6	なし シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	63 /200 m ²	53.1 m ² /ha	41/200 m ² 食痕:5 12%		13 /200 m ²	12/70 17%(0%)	
	51 /200 m ²	56.6 m ² /ha	26/200 m ² 食痕:2 8%(0%)		11 /200 m ²	7/51 14%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	6 /200 m ²	-/6 0%		30	23%・100・13%	136 ・ 1.15	
	4 /200 m ²	-/4 0%(0%)		34	61%・135・0%	120 ・ 1.24	

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
オヒョウ	25	6,715	12	1	3
オニグルミ	2	2,205			
ホオノキ	11	917	9		
シウリザクラ	7	897	1		1
ハリギリ	1	437			
総計	51	11,324	26	2	7

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
オニグルミ	1	
オヒョウ	1	
ホオノキ	1	
ヤチダモ	1	
総計	4	

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.85248	61	135	0
オシダ	14	0.15658	19	75	0
オオハナウド	11	0.07872	8	85	0
ミヤマベニシダ	8	0.05197	7	76	0
フッキソウ	18	0.02589	11	22	0



芽室町の沢に近い落葉広葉樹の二次林に設定している。直近の SPUE は前回時の 9.4 に比べると、1.3 と大きく減少しており、累積値も減少した。下枝本数は前回の 6 割ほどに減少したが、食痕率は 8% と低く、夏季の食痕は見られなかった。樹皮剥ぎ率も 14% と前回同様で新規は見られなかった。

稚樹は元々 6 本と少なく 4 本に減少したが、食痕は確認されなかった。林床はクマイザサの被度が 23% から 61% へと大きく増加し、草丈も高くなっている。ただし、これらササの被度や高さの増加には調査時期の違いの影響も含まれていると思われる。一方で、オオハナウド (19.5%→8.2%) や エゾノレイジンソウ (21.7%→0.2%) は大きく減少している。

全体的にはシカの影響は少なく、林床植生の変化はササの増加による影響が強いと考えられる。

T-O6 の結果概要 地区名：T-N 312 林班ろ O1 小班 2012 年 6 月 13 日/2019 年 7 月 24 日調査

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	斜面中部	北東	1 1	2 2	2012 年 2.6 2017 年 1.8	累積 4.1 累積 3.7	なし なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	99 /200 m ²	36.8 m ² /ha	44/200 m ² 食痕:4 9%		42 /200 m ²	4/120 3%(0%)	
	70 /200 m ²	37.7 m ² /ha	27/200 m ² 食痕:0 0%(0%)		21 /200 m ²	2/69 3%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	4 /200 m ²	-/4 0%		4	84%・120・20%	88 ・ 1.03	
	0 /200 m ²	-/0 0%(0%)		8	97%・160・0%	100 ・ 1.58	

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり	樹皮剥 (本)
ヤチダモ	6	1,750			
ミズナラ	4	1,549	1		
シナノキ	13	1,451	3		
キハダ	4	1,093			
アオダモ	22	518	13		2
総計	70	7,547	27		2

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
----	----	-------------

なし

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.54488	97	160	0
アカイタヤ	2	0.0246	2	173	0
フッキソウ	19	0.00342	2	18	0
ハウチワカエデ	1	0.00175	0.3	70	0
シナノキ	1	0.0002	0.1	22	0



帯広市の尾根に近い落葉広葉樹の二次林に設定している。直近の SPUE は 1.8 と低く、前回の 2.6 から減少している。下枝本数や小径木数は 5~6 程度に減少しているが、食痕は確認されていない。樹皮剥ぎも前回同様ほとんどない。

稚樹は前回は 4 本 (全てアオダモ) あったが全て消失した。林床はクマイザサが前回よりも増加して 97% と密生し、高さも 160cm と大きく増加した。ササの被度や高さの増加には調査時期の違いの影響も含まれていると思われる。

全体的にはシカの影響は少なく、下枝本数や小径木数の減少は、林分環境の変化によるものが多いと考えられる。

T-O7 の結果概要

地区名：T-C

344 林班わ小班

2012 年 6 月 14 日/2019 年 7 月 24 日調査

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	斜面下部	南東	1 1	1 2	2012 年 3.0 2017 年 7.7	累積 3.4 累積 3.6	シカ道・糞 シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	46 /200 m ²	34.5 m ² /ha	32/200 m ² 食痕:15 47%		21 /200 m ²	18/58 31%(0%)	
	35 /200 m ²	38.1 m ² /ha	23/200 m ² 食痕:12 52%(13%)		15 /200 m ²	7/35 20%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	54 /200 m ²	10/27 37%		20	-%- --%	106 ・ 0.56	
	28 /200 m ²	22/28 79%(14%)		37	-%- --%	74 ・ 0.63	

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり	樹皮剥 (本)
ハルニレ	1	2,674			
オヒョウ	3	1,740			1
シウリザクラ	8	1,002	4	3	3
ヤチダモ	1	980			
キハダ	1	392			
総計	35	7,615	23	12	7

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
シウリザクラ	22	19
ハシドイ	4	3
オヒョウ	1	
ヤチダモ	1	
総計	28	22

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ハシドイ	12	0.26645	17	123	6
コンロンソウ	17	0.09721	17	53	1
シウリザクラ	10	0.05844	4	141	7
ヨブスマソウ	10	0.0468	4	77	0
コバノイラクサ	11	0.04429	7	54	0



中札内村の川に近い落葉広葉樹の二次林に設定している。高木層はハルニレ、オヒョウ、ヤチダモが優占し、亜高木層はシウリザクラが優占する。直近の SPUE は 7.7 と高く、前回調査時から大きく増加している。下枝本数、小径木ともに減少しており、食痕率は 52%と前回 (47%) 同様にかかなり高かった。夏季の食痕が 13%と高くなく、冬季の糞も見られることから、冬季の越冬場所として利用されている。樹皮剥ぎは 20%で見られ前回 (31%) よりも減少したが、オヒョウを中心に樹皮はぎにより枯死した個体が多かったことによる。

稚樹はシウリザクラを中心に 28 本で、密度は前回から半減しており、食痕率は 79%と極めて高い。林床はササ類を欠いており、トクサやコンロンソウなどが優占していたが、被食によりトクサは 44%から 2.9%へと大きく減少した。オヒョウの大径木は樹皮はぎされずに残っており、シウリザクラの新規加入個体が見られるが、前回調査時から、林分へのシカの影響の蓄積がかなり進んでいる。

T-08 の結果概要

地区名：T-C

375 林班た小班

2012 年 6 月 14 日/2019 年 7 月 24 日調査

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)	エゾシカの痕跡
広葉樹林	斜面下部	北	1 1	2 2	2012 年 6.8 2017 年 6.8	累積 5.7 累積 5.4 シカ道・足跡 シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)
	73 /200 m ²	35.9 m ² /ha	52/200 m ² 食痕:10 19%		50 /200 m ²	3/73 4%(1%)
	50 /200 m ²	38.2 m ² /ha	43/200 m ² 食痕:19 44%(37%)		26 /200 m ²	6/50 12%(2%)
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²
	31 /200 m ²	7/31 23%		33	-%・---%	121 ・ 0.53
	17 /200 m ²	9/17 53%(18%)		40	11%・103・0%	78 ・ 0.47

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
オヒョウ	9	4,128	7	2	4(1)
アカイタヤ	1	1,927	1		
オオバボダイジュ	6	395	6	4	
ケヤマハンノキ	1	369	1		
シウリザクラ	7	268	5	1	
総計	50	7,643	43	19	6(1)

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
シウリザクラ	16	8
アオダモ	1	1
総計	17	9

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
オシダ	13	0.13127	18	65	2
クマイザサ	8	0.12153	11	103	0
ジュウモンジシダ	17	0.06469	13	46	0
ムカゴイラクサ	20	0.02212	7	26	5
オオメシダ	6	0.01781	3	45	0



中札内村の落葉広葉樹の二次林に設定している。高木層はオヒョウやオオバボダイジュが優占し、亜高木層にはシウリザクラが多い。直近の SPUE は 6.7 と前回調査時 (6.8) と同様に高い水準である。下枝本数は 43 本で小径木は 26 本と半減しており、食痕率は 44% と高い。夏季の食痕率も 37% と高く、夏季の利用も多い。樹皮剥ぎは 12% で新規の樹皮はぎもわずかに見られる。稚樹は 17 本でほぼ半減し、ほとんどをシウリザクラが占め、前回多く見られたアオダモはほぼ消失した。食痕率も 53% と高かった。林床はササ類が少ない環境で、前回確認されたオオウバユリが消失した。シウリザクラの新規加入個体が見られるが、前回調査時から、林分へのシカの影響の蓄積がかなり進んでいる。

T-09 の結果概要 地区名：T-C 2036 林班り O1 小班 2012 年 6 月 8 日/2019 年 7 月 22 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面下部	南東	1 1	1 2	2012 年 3.9 2017 年 9.2	累積 4.3 累積 4.8	シカ道 シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	46 /200 m ²	20.8 m ² /ha	30/200 m ² 食痕:3 10%			24 /200 m ²	3/51 6%(0%)	
	40 /200 m ²	33.9 m ² /ha	22/200 m ² 食痕:17 77%(55%)			16 /200 m ²	3/40 8%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²	
	60 /200 m ²	1/30 3%		35	44%・72・82%		109 ・ 0.71	
	23 /200 m ²	17/23 74%(57%)		54	36%・74・0%		64 ・ 0.55	

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
オニグルミ	2	2,672			
ヤチダモ	4	1,797	1	1	
シウリザクラ	3	700	1	1	
ハシドイ	17	578	14	13	2・角1
ハルニレ	1	300			1
総計	40	6,775	22	17	3・角1

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
ハシドイ	15	10
シウリザクラ	6	6
キタコブシ	1	
ヤマモミジ	1	1
総計	23	17

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	17	0.28819	36	74	0
オシダ	7	0.1974	12	167	0
ハシドイ	6	0.01674	1	100	5
クサソテツ	4	0.01063	2	76	0
アキタブキ	2	0.0081	1	66	0



大樹町の沢沿いの落葉広葉樹二次林に設定している。高木層はヤチダモやオニグルミが優占し、亜高木層にはハシドイが多い。直近の SPUE は 9.2 と前回時から大きく増加し、極めて高い。下枝本数や小径木は減少し、6〜7 割ほど減少しており、食痕率は 77%と極めて高い。夏季の食痕率も 55%と高く、夏季の利用は多い。樹皮剥ぎは 8%と少なく、新規も見られない。

稚樹はハシドイやシウリザクラなど 23 本で、前回時から密度は 4 割に減少した。食痕率は 74%と極めて高く、夏季の食痕率も 57%とかなり高い。林床はクマイササが 4 割弱を占めており、前回見られた食痕は今回は確認されなかった。ササのほか、フッキソウやミツバウツギは前回から大きく減少した。前回調査時から、林分へのシカの影響の蓄積がかなり進んでいる。

T-10の結果概要

地区名：T-C

2081 林班や O1 小班

2012 年 6 月 7 日/2019 年 7 月 22 日調査

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡		
広葉樹林		平坦		なし	1	2	2012 年	3.3	累積	4.3	なし
					1	2	2017 年	4.3	累積	4.5	シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)				小径木 5cm 未満		樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	63 /200 m ²	61.2 m ² /ha	23/200 m ² 食痕:0 0%				21 /200 m ²		-／58 0%(0%)		
	61 /200 m ²	68.3 m ² /ha	21/200 m ² 食痕:3 14% (10%)				22 /200 m ²		-／60 0%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率			総被度・現存量 m ³ /m ²	
	18 /200 m ²	-／18 0%				18	82%・77・35%			92 ・ 0.67	
	5 /200 m ²	-／5 0%(0%)				23	90%・111・0%			96 ・ 1.02	

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
ミズナラ	11	5,975	3		
シラカンバ	11	3,036	2		
ホオノキ	12	1,410	4		
シナノキ	3	1,046			
イヌエンジュ	3	974			
総計	61	13,664	22	3	

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
トドマツ	6	
アオダモ	2	
イヌエンジュ	1	
エゾヤマザクラ	1	
ハウチワカエデ	1	
総計	11	

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.00615	90	111	0
チョウセンゴミシ	11	0.00632	1	24	0
ツタウルシ	13	0.00487	2	18	0
サッポロスゲ	9	0.00143	0.4	22	0
ニシキギ	6	0.00104	0.5	19	0



大樹町の沢沿いの落葉広葉樹二次林に設定している。高木層はミズナラ、シラカバが優占し、亜高木層にはハシドイが多い。直近の SPUE は 4.3 で前回調査時 (3.3) から増加している。下枝本数と小径木本数は前回とほぼ同じである。食痕率は 14% と比較的 low。樹皮剥ぎは前回同様に見られなかった。

針葉樹を除く稚樹は 5 本で、前回の 18 本から大きく減少したが、食痕は確認されなかった。林床はクマイササが 9 割を占めて密生しており、食痕は確認されなかった。その他の林床植物の食痕もほとんど見られない

全体的に食痕はわずかで、林内へのシカの影響の蓄積はそれほど大きくない。

T-11 の結果概要 地区名：T-C 2122 林班や小班 2012 年 6 月 7 日/2019 年 7 月 22 日調査

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	斜面下部	北西	1 1	1 2	2012 年 4.8 2017 年 9.1	累積 3.8 累積 4.0	なし シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	50 /200 m ²	29.3 m ² /ha	29/200 m ² 食痕:0 0%		18 /200 m ²	1/52 2%(0%)	
	49 /200 m ²	31.2 m ² /ha	29/200 m ² 食痕:12 41%(28%)		16 /200 m ²	-/49 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	94 /200 m ²	-/47 0%		43	32%・68・ 50%	95 ・ 0.51	
	20 /200 m ²	4/20 20%(0%)		32	43%・80・ 5%	59 ・ 0.43	

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
サワシバ	10	1,330	5	2	
ヤチダモ	2	828			
イタヤカエデ	5	763	3	2	
オヒョウ	4	756	1		
ケヤマハンノキ	1	694	1		
総計	49	6,232	29	12	

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
アオダモ	5	1
サワシバ	5	1
ハシドイ	4	2
ミズナラ	2	
イタヤカエデ	1	
総計	20	4

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.37679	43	80	1
オンダ	9	0.0151	3	36	0
トクサ	16	0.00924	1	42	0
サワシバ	2	0.00495	1	78	2
サップロスゲ	11	0.0046	2	21	0



大樹町の沢沿いの落葉広葉樹二次林に設定している。高木層はイタヤカエデが優占し、亜高木層にはサワシバが多い。直近の SPUE は 9.1 とかなり高く、前回調査時 (3.8) から大きく増加している。下枝本数と小径木本数は前回とほぼ同じであるが、食痕率は 41% と高い。夏季の食痕も 28% あり、夏季の利用も多い一方で、樹皮剥ぎは見られなかった。

稚樹は 20 本で前回調査時から約 2 割に大きく減少しており、食痕率は 20% だった。林床はクマイササが前回よりも増加し、約 4 割を占めたが、食痕率は 5% とわずかだった。その他の植物では、フッキソウ、トクサ、ツタウルシが減少した。前回調査時から、林分へのシカの影響の蓄積が見られる。

T-13 の結果概要 地区名：T-S 1009 林班お小班 2012 年 6 月 6 日/2019 年 7 月 23 日調査

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)	エゾシカの痕跡
広葉樹林	斜面中部	北	1 1	1 2	2012 年 5.0 2017 年 3.7	累積 4.0 累積 4.1 なし シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)
	77 /200 m ²	39.4 m ² /ha	43/200 m ² 食痕:2 5%		43 /200 m ²	47/101 47%(0%)
	63 /200 m ²	46.1 m ² /ha	36/200 m ² 食痕:21 58% (44%)		29 /200 m ²	25/63 40%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²
	180 /200 m ²	-/90 0%		52	41%・109・ 100%	130 ・ 0.96
	49 /200 m ²	21/49 43%(10%)		52	56%・138・ 0%	108 ・ 1.18

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり	樹皮剥 (本)
キハダ	5	2,397			
ウダイカンバ	6	2,107			
オノエヤナギ	2	955	2	1	
カソラ	5	927	3	3	1
シナノキ	1	756			
総計	63	9,217	36	21	25

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
アオダモ	24	11
シウリザクラ	11	3
ヤマモミジ	8	3
イタヤカエデ	4	2
オヒョウ	1	
総計	49	19

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	16	0.88273	56	138	0
ホザキナナカマド	8	0.09038	10	80	4
アオダモ	7	0.04174	4	103	6
ホソイノデ	7	0.03502	6	48	0
ヤマモミジ	4	0.03214	3	129	2



広尾町の沢沿いに面した斜面の落葉広葉樹二次林に設定している。高木層はキハダやウダイカンバが優占し、亜高木層にはアオダモが多い。直近の SPUE は 3.7 と前回調査時 (5.0) から減少している。下枝や小径木本数はやや減少しており、食痕率は 58% とかなり高い。樹皮剥ぎは約 4 割で見られ、新規は見られないが、13 本が前回調査後に生じたものである。

稚樹は 49 本で、前回調査時から密度は約 3 割と大きく減少し、食痕率も 43% と高かった。林床はクマイザサが前回よりも増加して 5 割以上を占めているが、食痕は確認されなかった。その他の植物としては、エゾトリカブトやフッキソウの減少が目立った。また、下枝や稚樹は比較的豊富にあるが、前回調査時から、林分へのシカの影響の蓄積が徐々に進んでいる。

T-14 の結果概要 地区名: T-S 1043 林班と小班 2012 年 6 月 5 日/2019 年 7 月 23 日調査

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	斜面中部	北	1 1	2 2	2012 年 6.8 2017 年 5.8	累積 4.6 累積 4.4	なし シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	59 /200 m ²	28.3 m ² /ha	33/200 m ² 食痕:0 0%		21 /200 m ²	8/62 13%(0%)	
	36 /200 m ²	26.2 m ² /ha	16/200 m ² 食痕:6 38%(31%)		8 /200 m ²	4/36 11%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	10 /200 m ²	-/10 0%		41	29%・66・ 70%	91 ・ 0.39	
	7 /200 m ²	6/7 86%(43%)		44	28%・85・ 36%	50 ・ 0.33	

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり	樹皮剥 (本)
ウダイカンバ	7	3,047			
ヤマグワ	3	610			
オノエヤナギ	1	390	1		
キハダ	3	294	2		
シナノキ	4	257	3	3	
総計	36	5,235	16	6	4

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
アオダモ	4	3
ホオノキ	2	2
オニグルミ	1	1
総計	7	6

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	14	0.26581	28	85	5
ジュウモンジンダ	8	0.01775	5	34	0
オシダ	7	0.0127	3	33	1
クサソテツ	4	0.00938	2	43	2
フッキソウ	12	0.00803	4	19	3



広尾町の沢沿いに面した斜面の落葉広葉樹二次林に設定している。高木層はイタヤカエデが優占し、亜高木層にはハンドイが多い。直近の SPUE は前回調査時 (6.8) から減少したが 5.8 と高い。下枝や小径木本数は半数以下に減少しており、食痕率も 38% と高い。夏季の食痕率も 31% と多くなっている。樹皮剥ぎは 1 割ほどで見られるが、新規はない。

稚樹はアオダモなど 7 本と少なく、ほぼ全てに食痕が確認された。林床はクマイザサが 3 割ほどを占めており、食痕率も 36% と比較的高かった。

全体的に食痕は多く、小径木や稚樹の減少など前回調査時から林分へのシカの影響の蓄積がかなり進んでいる。

T-16 の結果概要 地区名：T-S 1114 林班へ小班 2012 年 6 月 4 日/2019 年 7 月 23 日調査

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)	エゾシカの痕跡
広葉樹林	斜面下部	南東	1 1	2 2	2012 年 6.7 2017 年 5.8	累積 6.1 累積 6.2 なし なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)
	50 /200 m ²	41.7 m ² /ha	32/200 m ² 食痕:2 0%		20 /200 m ²	11/52 21%(0%)
	33 /200 m ²	52.4 m ² /ha	12/200 m ² 食痕:9 75%(58%)		2 /200 m ²	3/33 9%(3%)
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²
	18 /200 m ²	1/18 6%		44	45%・84・ 68%	97 ・ 0.56
	1 /200 m ²	1/1 100%(0%)		51	48%・126・ 15%	76 ・ 0.69

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

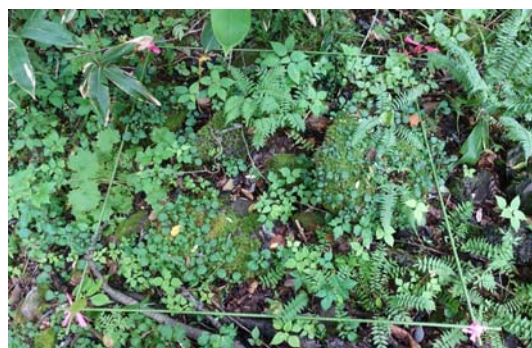
種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
ヤチダモ	8	5,551	1		
シナノキ	7	1,780	4	4	
オノエヤナギ	3	1,156	1		
アオダモ	3	652	3	3	3(1)
イタヤカエデ	4	450	1		
総計	33	10,482	12	9	3

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
ハルニレ	1	1
総計	1	1

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.62348	48	126	3
ジュウモンジシダ	12	0.02663	7	32	0
フッキソウ	14	0.00816	4	21	0
ムカゴイラクサ	19	0.0056	3	17	4
オシダ	10	0.00476	2	20	3



広尾町の沢に隣接した平坦地の落葉広葉樹二次林に設定している。高木層はヤチダモやシナノキが優占し、亜高木層にはヤチダモやアオダモが多い。。直近の SPUE は前回調査時 (6.7) から減少したが 5.8 と高い。下枝は 4 割、小径木本数は 1 割へと大幅に減少しており、食痕率も 75% と極めて高い。夏季の食痕率も 58% とかなり高く、夏季の利用も多い。樹皮剥ぎは 1 割ほどで見られ、新規もわずかにある。

稚樹は前はアオダモなど 18 本あったが、1 本のみとほぼ消失した。林床はクマイザサが 5 割ほど占めており、食痕率は 15% だった。その他の植物としては、フッキソウの減少が目立った。

シカの利用頻度が高い河畔に位置することを影響し、小径木や稚樹がほぼ消失するなど、極めて強いシカの影響を受けており、かなり蓄積されている状況である。

KM-O2 の結果概要

地区名：KM-N 1083 林班の小班

2012 年 7 月 18 日/2019 年 7 月 25 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		斜面下部	北東	1 1	2 2	2012 年 - 2017 年 -	累積 4.2 累積 3.8	糞・足跡・姿 シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	44 /200 m ²	55.3 m ² /ha	13/200 m ² 食痕 : 7 54%			16 /200 m ²	2/28 7%(0%)	
	40 /200 m ²	59.8 m ² /ha	9/200 m ² 食痕 : 6 67%(44%)			11 /200 m ²	1/26 4%(4%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²
	5 /200 m ²	— /5 0%			15	25%・122・ 95%		93 ・ 1.10
	11 /200 m ²	4/11 36%(27%)			21	71%・129・ 35%		82.5 ・ 1.12

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
アカエゾマツ	2	3,386			
ハリギリ	2	2,764			
ミズナラ	1	2,365			
ケヤマハンノキ	7	2,069	3	1	
トドマツ	12	802	11		角3
総計	40	11,952	20	6	1・角3

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
トドマツ	6	
ヤマモミジ	6	1
ノリウツギ	3	2
キタコブシ	1	
モイワボダイジュ	1	1
総計	17	4

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.01	71	129	7
トドマツ	4	0.0786	5	150	0
キハダ	3	0.0231	1	124	2
フッキソウ	7	0.00402	2	19	0
ケヤマハンノキ	2	0.00248	0.3	83	1



金山地区中部、金山湖沿岸(平坦地)の針広混交林に設定している。アカエゾマツが優占し、ハリギリやミズナラなどが混生する。直近の SPUE データはないが、累積値は 3.8 と中程度で、前回と大きく変化していない。調査時にシカ道が確認されている。下枝がある立木は 9 本(トドマツ除く)と前回よりも減少しており、67%に食痕がみられる。樹皮剥ぎ・角こすりも少ないが観察される。

稚樹(広葉樹)はヤマモミジなど 11 本で(1 区当たりでは 5.5 本)、このうち 4 本に食痕が観察されている。林床はクマイザサが優占し、前回に比べて被度が大きく増加した。前はシカの食痕が 95%と高頻度で見られたが、今回は 35%だった。その他の植物としてはトドマツやキハダなどがある。不嗜好植物のフッキソウもそれほど多くはないが生育する。

KM-03 の結果概要 地区名：KM-N 1076 林班の小班 2012 年 7 月 17 日/2019 年 7 月 25 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		尾根	北東	1	1	2012 年 6.5	累積 3.6	シカ道
				1	2	2017 年 5.3	累積 4.0	シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	62 /200 m ²	65.2 m ² /ha	35/200 m ² 食痕:23 66%			30 /200 m ²	-／27 0%(0%)	
	56 /200 m ²	66.1 m ² /ha	29/200 m ² 食痕:20 69%(55%)			27 /200 m ²	-／45 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²
	26 /200 m ²	13／26 23%			28	33%・51・46%		64 ・ 0.27
	16 /200 m ²	6／16 38%(13%)			53	31%・80・0%		80.5 ・ 0.60

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
ミズナラ	3	2,936			
シナノキ	4	2,782	2	1	
エゾヤマザクラ	2	2,377	2	2	
イタヤカエデ	4	1,053	2	1	
ホオノキ	1	908	1		
総計	56	13,222	40	20	角1

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
トドマツ	51	
イタヤカエデ	4	2
ハウチワカエデ	4	
エゾマツ	2	
オヒョウ	2	
総計	69	5

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.3353	31	80	0
トドマツ	9	0.14071	11	84	0
オクノカンスゲ	17	0.0418	17	23	0
オンダ	6	0.02258	5	33	0
ミヤママタタビ	2	0.01443	2	80	2



金山地区中部、金山湖の南西側の落葉広葉樹林(周辺は針広混交林)に設定している。ミズナラとシナノキが優占し、エゾヤマザクラやイタヤカエデなどが混生する。直近の SPUE は 5.3 とやや高く、累積値は 4.0 と中程度である。顕著なものではないが、林内にシカ道が形成されている。下枝がある立木は 29 本(針葉樹等を含めると 40 本)と前回に比べてやや減少し、比較的高い割合(69%)で食痕がみられる。

稚樹はトドマツが多く、広葉樹ではイタヤカエデ・ハウチワカエデの各 4 本はじめ計 16 本が確認され、38%の割合で食痕が観察されている。林床はクマイザサがややまばらに生育し、前回はシカの食痕がときどき見られたが、今回は確認されなかった。その他の植物としてはトドマツやオクノカンスゲなどがある。

KM-O5 の結果概要 地区名：KM-N 1015 林班に小班 2012 年 7 月 28 日/2019 年 8 月 14 日調査

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	平坦	なし	1 1	2 2	2012 年 2.3 2017 年 3.8	累積 2.9 累積 3.1	足跡 なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	51 /200 m ² 40 /200 m ²	46.4 m ² /ha 49.0 m ² /ha	24/200 m ² 食痕:5 21% 10/200 m ² 食痕:7 70% (0%)		15 /200 m ² 5 /200 m ²	2/44 5%(2%) 6/34 18%(9%)	
	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
稚樹	0 /200 m ² 0 /200 m ²	—/0 —% —/0 —%		5 9	99%・171・0% 99%・162・10%	99 ・ 1.69 99.4 ・ 1.60	

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり	樹皮剥 (本)
ダケカンバ	4	2,607	2	2	
イタヤカエデ	8	1,918	3	2	1(1)
ウダイカンバ	1	1,531			
ヤチダモ	4	971			
イヌエンジュ	6	956	1	1	
総計	40	9,798	10	7	6(3)

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
なし		

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.59765	99	162	2
サラシナショウマ	2	0.00423	1	65	0
ツタウルシ	2	0.0005515	0.2	30	0
フッキソウ	1	0.000095	0.1	19	0
イタヤカエデ	1	0.000004	0.01	8	0



金山地区西部、夕張岳登山口付近の落葉広葉樹林の二次林に設定している(平坦地)。ダケカンバが優占し、イタヤカエデやウダイカンバなどが混生する。直近の SPUE は 3.8 と中程度だが、増加傾向にある。下枝がある立木は 24 本から 10 本に減少し(針葉樹等を除く)、70%の割合で食痕がみられ(いずれも冬季)、樹皮剥ぎも 44%の立木に観察された。これらのデータからは、夏季の利用は少なく、冬季によく利用されていることを示している。

稚樹は前回から少なかった(ハウチワカエデ 1 本のみ)が、今回はまったくなかった。林床はクマイザサが密生し、シカの食痕がまばらに見られた。その他の植物としてはサラシナショウマやツタウルシなどがある。

KM-O7 の結果概要

地区名：KM-N

1111 林班ろ小班

2012 年 7 月 17 日/2019 年 8 月 14 日調査

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	尾根	北	1 1	2 2	2012 年 4.4 2017 年 -	累積 3.7 累積 3.4	糞・シカ道 シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	108 /200 m ² 70 /200 m ²	32.5 m ² /ha 33.5 m ² /ha	69/200 m ² 食痕:9 13% 42/200 m ² 食痕:27 64%(5%)		72 /200 m ² 33 /200 m ²	4/83 5%(1%) 1/62 2%(2%)	
	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
稚樹	20 /200 m ² 10 /200 m ²	20/5 25% 9/10 90%(0%)		38 40	31%・64・16% 43%・71・0%	96 ・ 0.44 95.5 ・ 0.54	

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
シナノキ	17	2,758	11	9	
ケヤマハンノキ	1	1,380	1	1	
ハウチワカエデ	23	761	18	10	
サワシバ	4	451	3	3	
エゾマツ	4	271	4		
総計	70	6,710	47	27	1

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
エゾマツ	6	
トドマツ	6	
オガラバナ	4	4
オヒョウ	4	3
イタヤカエデ	1	1
総計	22	9

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.32715	43	71	0
オクノカンスゲ	17	0.05873	21	25	0
オンダ	4	0.03813	6	68	0
エゾアジサイ	4	0.01883	3	66	2
フッキソウ	12	0.01859	6	27	0



占冠地区北部の落葉広葉樹林に設定している。シナノキが優占し、ハウチワカエデやサワシバなどが亜高木層・低木層を形成する。直近の SPUE のデータはないが、累積値は 3.4 と中程度である。下枝がある立木は前回の 69 本から 42 本に減少し(針葉樹等を除く)、食痕率は 13% から 64% に大きく増加した。一方、立木の樹皮剥ぎは 4 本から 1 本に減少した。

広葉樹の稚樹は前回の 20 本から 10 本に半減し、その 90% に食痕が見つかった。林床はクマイザサが優占するが、まばらな場所もある。ササに対するシカの食痕は、前回はわずかに観察されたが、今回は確認されなかった。その他の植物としては、オクノカンスゲやフッキソウ(不嗜好植物)、エゾアジサイが多い。

KM-08 の結果概要

地区名：KM-N 1217 林班ろ小班

2012 年 7 月 9 日/2019 年 7 月 26 日調査

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	緩斜面	北東	1 1	2 2	2012 年 4.7 2017 年 -	累積 4.5 累積 4.5	なし シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	73 /200 m ²	30.3 m ² /ha	32 /200 m ² 食痕:0 0%		39 /200 m ²	- /68 0%(0%)	
	69 /200 m ²	40.5 m ² /ha	37 /200 m ² 食痕:22 59% (51%)		33 /200 m ²	3 /61 5%(5%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	25 /200 m ²	- /25 0%		26	28%・84・0%	83 ・ 0.59	
	4 /200 m ²	1 /4 25%(0%)		31	67%・121・5%	108.9 ・ 1.05	

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
トドマツ	5	2,531	1		角2
ホオノキ	11	1,795	1		
イヌエンジュ	2	938			
アオダモ	2	668	2	1	2
エゾマツ	3	571	2		角1
総計	69	8,104	40	22	3・角3

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
トドマツ	3	
イタヤカエデ	1	
シナノキ	1	
ハウチワカエデ	1	1
ミヤマザクラ	1	
総計	7	1

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.82668	67	121	1
ヤマドリゼンマイ	14	0.15176	18	66	1
オシダ	7	0.02428	4	51	0
フッキソウ	19	0.01799	8	21	0
アキタブキ	1	0.0071	1	71	0



占冠地区東部の針広混交林に設定している。トドマツが優占し、ホオノキやイヌエンジュなどが混生する。直近の SPUE のデータはないが、蓄積値は 4.5 と高く、林内にシカ道が形成されている。下枝がある立木は前回の 32 本から 37 本に増加し（トドマツ除く）、食痕は前回確認されていなかったが、今回は 59%と大きく増加した（夏の食痕が目立った）。樹皮剥ぎはアオダモなどに確認され、トドマツ・エゾマツにはそれぞれ角とぎが観察された。

稚樹は、前回ハウチワカエデなど 25 本が確認されていたが、今回は 4 本に激減した。そのうち 1 本に食痕が見つかった。林床はクマイザサが優占するが、密生する場所とややまばらな場所があり、シカの食痕はわずかだった。その他の植物としては、ヤマドリゼンマイやオシダなどのシダが多く、不嗜好植物のフッキソウも多い。

KM-10の結果概要

地区名：KM-S

1202 林班ほ小班

2012 年 7 月 11 日/2019 年 7 月 26 日調査

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	平坦	なし	1 1	1 2	2012 年 8.5 2017 年 -	累積 8.3 累積 7.4	シカ道 なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	57 /200 m ²	32.2 m ² /ha	30/200 m ² 食痕:7 23%		22 /200 m ²	2/56 4%(0%)	
	48 /200 m ²	35.8 m ² /ha	26/200 m ² 食痕:5 19%(19%)		20 /200 m ²	1/48 2%(2%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	40 /200 m ²	-/20 0%		29	67%・96・0%	86 ・ 0.76	
	13 /200 m ²	3/13 23%(0%)		30	85%・115・0%	105.8 ・ 1.12	

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
シナノキ	11	3,753	6	3	
ウダイカンバ	2	753			
キタコブシ	10	745	7		
ホオノキ	4	486	3		
ミズナラ	2	345	2	1	1
総計	48	7,165	26	5	1

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
イタヤカエデ	3	
イヌエンジュ	1	
オニグルミ	1	
カツラ	1	
シナノキ	1	1
総計	13	3

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.98583	85	115	0
オシダ	6	0.03863	3	171	0
ヤマドリゼンマイ	3	0.03098	4	55	0
サップロスゲ	6	0.02347	5	40	0
カサスゲ	3	0.01131	2	68	0



占冠地区西部の落葉広葉樹林に設定している。シナノキが優占し、ウダイカンバやキタコブシなどが混生する。直近の SPUE のデータはないが、累積値は 7.4 と高い。下枝がある立木は前回 30 本から 26 本に減少し、19%に食痕が確認され、いずれも夏の食痕だった。樹皮剥ぎは 1 本のみに観察された。

稚樹は前回 40 本から 13 本に減少し、3 本に食痕が見つかった。林床はクマイザサが密生するが、シカの食痕は観察されなかった。その他の植物としては、オシダ、ヤマドリゼンマイなどがやや多く、食痕は少なかった。

KM-13の結果概要

地区名：KM-S 2141 林班いO3 小班

2012 年 7 月 10 日/2019 年 7 月 26 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面	北	1 1	1 2	2012 年 5.8 2017 年 3.8	累積 3.7 累積 3.7	シカ道 シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	71 /200 m ²	45.9 m ² /ha	44/200 m² 食痕:5 11%			49 /200 m²	18/66	27%(0%)
	56 /200 m ²	54.5 m ² /ha	25/200 m² 食痕:9 36%(16%)			31 /200 m²	12/56	21%(21%)
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	102 /200 m²	4/51	8%		18	75%・99・0%	80 ・ 0.79	
	45 /200 m²	36/45	80%(16%)		18	88%・112・0%	94.2 ・ 1.02	

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
アサダ	9	2,492	3		
イタヤカエデ	3	2,009			
シナノキ	4	1,712	2	2	1
サワシバ	2	1,385			
キタコブシ	1	1,016			
総計	56	10,900	25	9	12(1)

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
シウリザクラ	45	36
トドマツ	1	
総計	46	36

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.9855	87.5	112	0
シウリザクラ	8	0.02162	2.2	99	7
オシダ	5	0.00531	1.5	34	0
オクノカンスゲ	9	0.00314	1.3	24	0
トドマツ	4	0.00159	0.5	31	0



むかわ地区北東部の落葉広葉樹林に設定している。アサダが優占し、イタヤカエデやシナノキなどが混生する。直近の SPUE は 3.8、累積は 3.7 で、林内にシカ道が形成されていた。下枝がある立木は前回の 44 本から 25 本に減少し、食痕率も 11%から 36%増加した。シナノキなど樹皮剥ぎが観察された立木は 21%にのぼり、小径木の本数は前回の 49 本から 31 本に減少した。

稚樹はシウリザクラが多く見られたが、前回の 102 本から 45 本に減少、80%に食痕が確認された。林床はクマイザサが密生し、シカの食痕は観察されなかった。その他の植物では、シウリザクラやオシダなどが生育した。

KM-14 の結果概要

地区名：KM-S 2062 林班いO2 小班 2012 年 7 月 10 日/2019 年 7 月 26 日調査

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	緩斜面	南西	1 1	2 2	2012 年 10.2 2017 年 3.5	累積 4.7 累積 4.6	なし なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	47 /200 m ²	62.0 m ² /ha	26/200 m ² 食痕: 8 31%		25 /200 m ²	4/48 8%(0%)	
	37 /200 m ²	62.7 m ² /ha	18/200 m ² 食痕: 17% (11%)		12 /200 m ²	2/33 6%(6%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²
	17 /200 m ²	4/17 24%			18	73%・101・10%	78 ・ 0.79
	5 /200 m ²	- /5 0%(0%)			30	80%・102・0%	94.4 ・ 0.94

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
ミズナラ	2	2,607			
ハルニレ	1	1,870			
アサダ	2	1,517			
トドマツ	4	1,514			1
キタコブシ	9	1,301	8	2	
総計	37	12,550	18	3	2

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
イヌエンジュ	4	
トドマツ	2	
イタヤカエデ	1	
総計	7	

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.81563	79.5	102	0
サワシバ	4	0.05313	3.0	178	0
キタコブシ	3	0.03359	2.1	284	1
サップロスゲ	5	0.01549	4.3	34	0
イヌエンジュ	3	0.00607	1.7	51	0



むかわ地区北東部の針広混交林に設定している。前回はトドマツが優占していたが、現在はミズナラが優占し、ハルニレなどが混生する。直近の SPUE は 3.5 と中程度だが、累積値は 4.6 である。下枝がある立木は前回 26 本だったが（トドマツを除く）、今回は 18 本に減少し、17%に食痕が確認された。一部の立木に樹皮剥ぎまたは角とぎが観察される。

稚樹は前回、キタコブシなど 17 本が生育していたが、今回は 5 本に減少した（前回はキタコブシなど約 4 割に食痕が確認されたが、今回は確認されなかった）。林床はクマイザサが密生するが、今回シカの食痕は観察されなかった。その他の植物としては、サワシバやキタコブシなどが生育する。

IB-06 の結果概要

地区名：IB-E 1205 林班い小班

2012 年 6 月 14 日/2019 年 8 月 15 日調査

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	平坦	なし	1 1	1 2	2012 年 7.6 2017 年 9.9	累積 5.1 累積 6.0	なし なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	54 /200 m ²	70.7 m ² /ha	42 /200 m ² 食痕:4 10%		34 /200 m ²	1 /54 2%(0%)	
	47 /200 m ²	83.6 m ² /ha	17 /200 m ² 食痕:14 82%(35%)		23 /200 m ²	1 /46 2%(2%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	260 /200 m ²	64 /130 49%		67	0% ・—・—%	113 ・ 0.69	
	57 /200 m ²	57 /57 61%(12%)		61	0% ・—・—%	74.5 ・ 0.38	

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
カツラ	6	9,549	6	6	
エゾマツ	1	2,037			
シウリザクラ	13	1,865	4	4	1(1)
アサダ	1	1,184			
ヤマモミジ	2	810			
総計	47	16,730	17	14	1(1)

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
シウリザクラ	16	14
イタヤカエデ	13	4
キタコブシ	9	3
アオダモ	5	4
ヤマモミジ	5	4
総計	57	35

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
オシダ	20	0.28086	41.4	60	0
モミジガサ	17	0.02635	3.8	45	0
シラネウラボ	8	0.01968	4.9	32	0
フッキソウ	18	0.01207	6.0	17	0
フタリシズカ	19	0.01145	3.9	26	0



苫小牧北部の平坦地の針広混交林に設定している。周辺一帯は保護林に指定されていて、ほとんど伐採の影響が見られない林分である（長期生態学研究を目的とした JaLTER の研究サイトも近くにある http://jalter.sakura.ne.jp/researchsites/kita_tomakomai/）。大径木を伴ったカツラやアサダなどの落葉広葉樹が優占するが、その中にエゾマツが散生する。亜高木層にはシウリザクラがまともってみられる。直近の SPUE は 9.9 とかなり高く、急増している。下枝がある立木は前回 42 本あったが、今回は 17 本に激減し、食痕が高頻度で見られた。一方、樹皮剥ぎは 1 本だけだった。

稚樹は前回、シウリザクラをはじめ、アカイタヤ、ヤチダモ、アオダモなど計 260 本生育していたが、今回は 57 本に急減し、61%に食痕が見られた。林床はササが生育しておらず、オシダや高木の稚樹など多種多様な植物が生育していた（61 種）。

IB-O7 の結果概要 地区名：IB-E 1170 林班い O1 小班 2012 年 6 月 14 日/2019 年 8 月 15 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面	南西	1 1	2 2	2012 年 7.6 2017 年 9.9	累積 5.1 累積 6.0	なし シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	67 /200 m ²	33.4 m ² /ha	51 /200 m ² 食痕:12 36%			36 /200 m ²	— /73 0%(0%)	
	55 /200 m ²	47.0 m ² /ha	41/200 m ² 食痕:28 68%(0%)			21 /200 m ²	1 /54 2%(2%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²
	65 /200 m ²	35 /65 54%			55	0%・—・—%		44 ・ 0.19
	25 /200 m ²	7 /25 28%(0%)			51	0%・—・—%		32.2 ・ 0.12

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
ミズナラ	4	3,579	2		
サワシバ	35	2,314	33	24	1
ホオノキ	3	1,146	2	2	
イタヤカエデ	2	979			
ヤチダモ	1	649			
総計	55	9,393	41	28	1

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
キタコブシ	20	3
ヤマモミジ	4	3
シウリザクラ	1	1
総計	26	7

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
オシダ	18	0.08548	16.6	45	0
フッキソウ	20	0.01186	5.8	19	0
キタコブシ	5	0.00543	1.3	33	0
モミジガサ	12	0.00437	1.3	24	0
フタリシズカ	11	0.00284	1.2	22	0



苫小牧北部の丘陵地の緩斜面の落葉広葉樹二次林に設定している。ミズナラが優占し、サワシバやホオノキなどが混生する。直近の SPUE は 9.9 とかなり高く、急増している。下枝がある立木は前回 51 本あったが、今回は 41 本に減少し、食痕率は 68% と高かった。一方、樹皮剥ぎは 1 本のみだった。

稚樹はキタコブシなどが多く、前は 65 本生育していたが、今回は 25 本と急減し、28% に食痕が見られた。林床はササが生育しておらず、オシダやフッキソウ、高木の稚樹など多種多様な植物が生育していた (51 種)。

IB-08 の結果概要 地区名：IB-E 1357 林班い02 小班 2012 年 7 月 3 日/2019 年 8 月 16 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		ほぼ平坦	南南西	1 1	1 2	2012 年 7.1 2017 年 6.3	累積 5.1 累積 5.2	糞・シカ道・姿 シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	103 /200 m ²	34.3 m ² /ha	78 /200 m ² 食痕:38 49%			73 /200 m ²	13/119 11%(1%)	
	53 /200 m ²	26.8 m ² /ha	35 /200 m ² 食痕:28 80%(3%)			31 /200 m ²	7/53 13%(13%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²	
	90 /200 m ²	48/90 53%		55	26%・60・42%		77 ・ 0.36	
	49 /200 m ²	31/49 63%(16%)		52	17%・ー・0%		50.2 ・ 0.21	

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり	樹皮剥 (本)
サワシバ	23	1,574	21	17	2
ヤマモミジ	4	1,031	1		2
ミヤマザクラ	1	703			
アサダ	1	602			
ホオノキ	4	500	1	1	1
総計	53	5,361	35	28	7

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
アズキナシ	22	20
アオダモ	9	6
サワシバ	8	1
ヤマモミジ	5	
シウリザクラ	3	3
総計	49	30

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ミヤコザサ	12	0.0668	16.8	40	0
ミミコウモリ	14	0.06093	10.1	47	0
オシダ	13	0.04772	9.0	34	0
サワシバ	15	0.01326	2.0	31	8
シラネワラビ	11	0.00601	2.4	20	0



苫小牧北部の丘陵地の落葉広葉樹二次林に設定している。直近の SPUE は 6.3 と高く、累積値も 5.2 と高かった。サワシバやヤマモミジなどの広葉樹が高密度に生育していたが、小径木が前回の 73 本から今回 31 本に大幅に減少し、全立木数も約半減した。下枝がある立木は前回 78 本あったが、今回は 35 本に激減し、食痕率は 80%だった。また、樹皮剥ぎも 7 本あり、サワシバ、ヤマモミジなど多様な樹種で確認された。

稚樹は、前回 90 本と多かったが、今回は 49 本に急減し、63%に食痕が見られた。林床はミヤコザサが優占するが、密生はしておらずややまばらで、前回の 26%から今回 17%に減少した(食痕は 0%)。それ以外では、不嗜好植物のミミコウモリがやや多いほか、高木の稚樹や草本など多種多様な植物が生育する(52 種)。

IB-09 の結果概要 地区名：IB-E 1362 林班い O1 小班 2012 年 7 月 3 日/2019 年 8 月 16 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		緩斜面	北東	1 1	2 2	2012 年 5.5 2017 年 5.1	累積 4.9 累積 5.4	姿 シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	62 /200 m ²	44.9 m ² /ha	42 /200 m ² 食痕:27 64%			16 /200 m ²	－／66 0%(0%)	
	52 /200 m ²	48.5 m ² /ha	31/200 m ² 食痕:13 42%(6%)			9 /200 m ²	－／52 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²
	97 /200 m ²	60／97 62%			53	2%・102・0%		85 ・ 0.50
	42 /200 m ²	19／42 45%(26%)			45	0.3%・－・100%		34.0 ・ 0.13

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
ミズナラ	7	3,718	2		
ホオノキ	5	1,335	1	1	
ヤチダモ	3	1,217	2	2	
ハルニレ	1	921			
ケヤマハンノキ	2	919			
総計	52	9,705	31	13	

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
アオダモ	26	9
キタコブシ	9	1
シウリザクラ	3	1
ヤマモミジ	2	1
コシアブラ	1	
総計	42	12

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
オシダ	19	0.07383	18.5	40	0
キタコブシ	3	0.01963	1.8	108	3
フッキソウ	20	0.01327	6.2	19	0
シラネワラビ	4	0.00417	1.4	23	0
ミミコウモリ	2	0.00395	1.2	38	0



苫小牧北部の丘陵地の落葉広葉樹林に設定している。ミズナラが優占し、ホオノキやヤチダモが混生する。直近の SPUE は 5.1 とやや高く、累積値も 5.4 となっている。シカの姿は見えていないが、林内にシカ道が形成されている。下枝がある立木は、前回の 42 本から今回 31 に減少し、食痕率は 42% だった。一方、樹皮剥ぎは観察されなかった。

稚樹はアオダモ、キタコブシなど、前回は 97 本と多かったが、今回は 42 本と急減し、45% に食痕が見られた。林床はほとんどササが生育せず、前回の 2% から 0.3% にさらに減少し、食痕率は 100% だった。それ以外ではオシダや高木の稚樹など多種多様な植物が生育していたが、出現種は前回の 53 種から 45 種に減少した。不嗜好植物のフッキソウやシラネワラビなどがやや多かった。

IB-14の結果概要 地区名：IB-C 26林班は小班 2012年6月28日/2019年8月28日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		緩斜面	南東	1	2	2012年	5.6	足跡
				1	2	2017年	5.6	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	53 /200 m ²	28.6 m ² /ha	25 /200 m ² 食痕:2 8%			12 /200 m ²	4/59 7%(0%)	
	41 /200 m ²	32.9 m ² /ha	16 /200 m ² 食痕:1 6%(6%)			7 /200 m ²	1/41 2%(2%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²	
	0 /200 m ²	—/0 —%		2	91%・145・35%		91 ・ 1.32	
	0 /200 m ²	—/0 —%		1	100%・169・20%		99.8 ・ 1.68	

※数値の上段は2012年調査結果。※稚樹は樹高30cm以上のもののみ集計。※総BAは胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり	樹皮剥 (本)
ミズナラ	20	4,216	9		
ヤチダモ	5	1,142			
キハダ	1	500			
ハルニレ	2	337	1		
ハシドイ	10	263	6	1	1
総計	41	6,573	16	1	1

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
なし		

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.315	90.8	145	7
ハルニレ	1	0.000	0.0	4	



白老北西部、敷生川上流域の落葉広葉樹の二次林に設定している。周辺にはヤチダモ人工林があり、隣接する。調査区内はミズナラの若い一斉林となっていて、ヤチダモやキハダなどが混生する。直近のSPUEは5.6と高く、累積値も4.4となっていて、林内(調査地周辺の潤れ沢)にシカ道が形成されている。下枝がある立木は、前回の25本から今回16本に減少したが、食痕は1本のみに限られ、樹皮剥ぎも1本のみだった。

稚樹は前回同様、観察されなかった。林床はクマイザサが著しく密生し、まばらに食痕が見つかった。他の植物はほとんど生育しない。

IB-15の結果概要 地区名：IB-C 42 林班いO2 小班 2012 年 6 月 27 日/2019 年 8 月 28 日調査

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	ほぼ平坦	西	1 1	2 2	2012 年 5.6 2017 年 5.6	累積 3.9 累積 4.4	なし 糞
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	39 /200 m ²	60.8 m ² /ha	19 /200 m ² 食痕:5 26%		11 /200 m ²	4/39 10%(5%)	
	28 /200 m ²	65.5 m ² /ha	11/200 m ² 食痕: 27% (0%)		4 /200 m ²	11/27 41%(41%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²
	2 /200 m ²	—/2 0%			22	72%・202・65%	90 ・ 1.45
	0 /200 m ²	—/0 —%			39	37%・83・88%	57.0 ・ 0.40

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
ハルニレ	3	4,623	2	1	2(1)
ドロノキ	1	3,189			
アカイタヤ	5	1,639	2	1	2
エゾマツ	1	1,052			
キハダ	1	821			
総計	28	13,094	11	3	11(4)



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
なし		

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
チシマザサ	15	0.27853	27.9	93	13
クマイザサ	5	0.0516	8.7	51	4
ハンゴンソウ	5	0.02908	2.6	77	0
フッキソウ	19	0.02817	13.2	21	0
ジュウモンジシダ	4	0.00341	1.3	26	0



白老北西部、敷生川上流の川沿いのやや発達した落葉広葉樹林(周辺は針広混交林)に設定している。ハルニレやドロノキの大径木が見られ、アカイタヤやエゾマツなどが混生する。直近の SPUE は 5.6 と高く、累積値も 4.4 となっていて、新しいシカの糞も観察されている。下枝がある立木は前回の 19 本から 11 本に減少し、食痕率は 27%となっていた。また、樹皮剥ぎ率も 41%と高かった。

稚樹は、前回ヤマグワ 2 本が観察されたが、今回はまったく確認できなかった。林床はチシマザサとクマイザサが混じり、前は密生していたが、今回被度は半減していた。ササには高い割合でシカの食痕が見つかった。ササ以外では、不嗜好植物のハンゴンソウ、フッキソウ、ジュウモンジシダが多く観察された。冬季を中心に、シカの高い採餌圧にさらされている。

IB-16の結果概要 地区名：IB-C 2388 林班わ小班 2012 年 6 月 29 日/2019 年 8 月 28 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		緩斜面	南	1	2	2012 年 7.1	累積 3.0	なし
				1	2	2017 年 5.0	累積 3.5	なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	77 /200 m ²	44.6 m ² /ha	34 /200 m ² 食痕:12 35%			38 /200 m ²	— /65 0%(0%)	
	70 /200 m ²	50.3 m ² /ha	28 /200 m ² 食痕:8 29%(7%)			31 /200 m ²	5 /59 8%(8%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²	
	32 /200 m ²	18 /32 56%		22	77%・170・37%		90 ・ 1.09	
	2 /200 m ²	— /2 —%		23	61%・140・0%		62.6 ・ 1.21	

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
ダケカンバ	11	4,472			
アカイタヤ	10	2,444			
ホオノキ	7	1,395	1		1
ミズナラ	6	688	5	2	1
ハウチワカエデ	23	311	13	6	3
総計	70	10,059	28	8	5

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
ツリバナ	1	
ヤマモミジ	1	
アオダモ		
アカイタヤ		
アズキナシ		
総計	2	

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
チシマザサ	20	1.16215	52.8	201	0
クマイザサ	15	0.04561	7.9	57	0
ツルアジサイ	7	0.00268	0.4	28	0
ツタウルシ	11	0.00121	0.6	11	1
ヤマモミジ	1	0.00049	0.1	98	0



登別温泉郊外の落葉広葉樹林に設定している。周辺には常緑針葉樹の人工林が隣接し、越冬地利用の痕跡が見られる。ダケカンバが優占し、アカイタヤやホオノキなどが混生する。また、亜高木層や低木層にはハウチワカエデがまとまって生える。直近の SPUE は前回の 7.1 からはやや低下しているが 5.0 と高く、累積値も増加傾向である。下枝がある立木は前回の 34 本から 28 本に減少し、食痕率は 29%だった。また、樹皮剥ぎ率は 8%だった。

稚樹は前回 32 本あった（3 分の 2 以上に食痕が見られた）が、今回は 2 本のみとなった。林床はチシマザサとクマイザサが混じって密生し、前回シカの食痕が見つかったが、今回は観察されなかった。

IB-18の結果概要 地区名: IB-W 2318 林班る小班 2012 年 7 月 18 日/2019 年 8 月 30 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		テラス	なし	1	2	2012 年 8.3	累積 3.3	なし
				1	2	2017 年 7.4	累積 4.1	糞
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	81 /200 m ²	54.5 m ² /ha	29 /200 m ² 食痕:3 10%			23 /200 m ²	4/78 5%(0%)	
	60 /200 m ²	55.8 m ² /ha	14/200 m ² 食痕:1 7% (0%)			10 /200 m ²	12/58 21%(21%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²
	0 /200 m ²	— /0 ー%			25	73%・175・45%		108 ・ 1.33
	0 /200 m ²	— /0 ー%			17	85%・169・20%		104.7 ・ 1.58

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり	樹皮剥 (本)
アカイタヤ	5	2,930			
ケヤマハンノキ	7	2,312	4		
ミズナラ	3	1,667	2		
シナノキ	8	1,159	1	1	
ヤマモミジ	13	903	3		2
総計	60	11,159	14	1	12(1)

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
なし		

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
チシマザサ	16	1.15063	59.5	188	0
クマイザサ	11	0.3852	25.0	141	4
フッキソウ	16	0.03093	12.3	24	0
オクノカンスゲ	7	0.01168	5.4	18	0
ジュウモンジシダ	1	0.00175	0.5	35	0



登別北西部の幌別川上流域の落葉広葉樹林に設定している。周辺にはトドマツなどの人工林が点在し、越冬地利用の痕跡が見られる。調査区内はアカイタヤやケヤマハンノキが優占し、ミズナラやシナノキなどが混生する。また、亜高木層や低木層にはヤマモミジなどがややまとまって生える。直近の SPUE は 7.4 とかなり高く、累積値も 4.1 となっていて、調査区内でシカの糞が観察された。下枝がある立木は前回 29 本から 14 本に半減し、食痕がまばらにみられた。また、樹皮剥ぎ率も 21% と高かった。

稚樹は前回と同様観察されなかった。林床はチシマザサとクマイザサが混じって密生し、シカの食痕率は 20% だった。その他に不嗜好植物のフッキソウ、オクノカンスゲなどが生育した。

IB-19の結果概要

地区名：IB-W

2241 林班い小班

2012 年 7 月 18 日/2019 年 8 月 30 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		緩斜面	北東	1	2	2012 年 4.1	累積 2.9	食痕
				1	2	2017 年 2.9	累積 2.8	なし
毎木区	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	53 /200 m ²	43.8 m ² /ha	26/200 m ² 食痕:2 8%			14 /200 m ²	2/48 4%(2%)	
	36 /200 m ²	43.9 m ² /ha	10/200 m ² 食痕:3 30%(10%)			3 /200 m ²	1/36 3%(3%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²
	0 /200 m ²	—/0	—%		12	99%・195・41%		103 ・ 1.89
	0 /200 m ²	—/0	—%		13	121%・173・15%		122.1 ・ 2.20

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり	樹皮剥 (本)
ウダイカンバ	1	1,964			
ハリギリ	1	1,736			
ミズナラ	6	1,163	4	1	
アカイタヤ	8	1,091	1		
エゾヤマザクラ	2	778			
総計	36	8,789	10	3	1

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
なし		

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
チシマザサ	20	1.42683	68.8	201	1
クマイザサ	20	0.76863	52.0	144	2
ミヤマシケシダ	7	0.00111	0.7	12	0
フッキソウ	6	0.00043	0.3	15	0
クサギ	1	0.00017	0.1	34	0



登別市郊外の幌別ダム近くの落葉広葉樹林に設定している。周辺にはトドマツなどの人工林が点在する。調査区内にはウダイカンバ、ハリギリの中径木が点在し、ミズナラやアカイタヤなどが混生し、トチノキもわずかに生育する。直近の SPUE は 2.9 と前回からは減少し、累積値は 2.8 となっている。下枝がある立木は前回の 26 本から 10 本に減少し、食痕率は 30%だった。樹皮剥ぎは 1 本に観察された。

稚樹は前回と同様、観察されなかった。林床はチシマザサとクマイザサが混生し、密生する。ササ類にはシカの食痕がわずかに見られた。その他に不嗜好植物のクサソテツなどが生育するが、少ない。

なお、調査区付近の林道沿いではクサギなどに食痕が目立っている。

IB-20 の結果概要

地区名：IB-W

2222 林班よ小班

2012 年 7 月 24 日/2019 年 8 月 29 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		緩斜面	南	1	2	2012 年 3.1	累積 3.2	食痕
				1	2	2017 年 3.5	累積 2.9	なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	94 /200 m ²	62.4 m ² /ha	47/200 m ² 食痕:8 17%			33 /200 m ²	3/78 4%(0%)	
	63 /200 m ²	59.8 m ² /ha	20/200 m ² 食痕:1 5%(5%)			15 /200 m ²	6/51 65%(12%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²
	0 /200 m ²	—/0 ー%			7	83%・120・50%		83 ・ 1.00
	0 /200 m ²	—/0 ー%			3	93%・123・15%		93.3 ・ 1.16

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
ダケカンバ	12	6,888			
アカイタヤ	14	2,701	5		1
アオダモ	22	894	6	1	3
シナノキ	1	582	1		
イタヤカエデ	4	482	1		
総計	63	11,955	20	1	6(1)

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
なし		

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.155	93.3	123	3
フッキソウ	1	0.000	0.0	10	0
アカイタヤ	1	0.000	0.0	8	0
アオダモ					0
アオミズ					



室蘭北部、室蘭岳（鷲別岳）山麓の落葉広葉樹林に設定している。スキー場（だんパラスキー場）のゲレンデに隣接する。ダケカンバが優占し、アカイタヤなどが混生する。また、亜高木層や低木層にはアオダモがややまとまって生える。林分材積（総 BA）は、風倒木の発生などによって、前回よりやや減少している。直近の SPUE は 3.5、累積値は 2.9 となっている。下枝がある立木は前回の 47 本から 20 本に減少し、食痕率は 5%となっていた。アオダモには枝や樹皮に食痕が見られた。

稚樹は前回と同様、観察されなかった。林床はクマイザサが密生し、シカの食痕が一部に見られた。その他に不嗜好植物のフッキソウなどが生育するが、少ない。

前回から、エゾシカの利用に大きな変化はないと思われる。

IB-23 の結果概要

地区名：IB-W

2210 林班へ小班

2012 年 7 月 25 日/2019 年 8 月 29 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		尾根	南東	1	2	2012 年 1.4	累積 2.8	なし
				1	2	2017 年 0.1	累積 2.1	シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	95 /200 m ²	66.4 m ² /ha	68/200 m ² 食痕:3 4%			51 /200 m ²	3/92 3%(0%)	
	76 /200 m ²	72.3 m ² /ha	48/200 m ² 食痕:13 27%(4%)			38 /200 m ²	5/76 7%(7%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²
	52 /200 m ²	11/52 18%			26	37%・117・0%		75 ・ 0.63
	51/200 m ²	21/51 41%(14%)			33	49%・77・10%		58.0 ・ 0.49

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
ミズナラ	13	10,460	4	1	
エゾヤマザクラ	1	1,263			
サワシバ	25	1,064	21	5	1
アカイタヤ	4	619	2		
ハウチワカエデ	9	271	8	4	
総計	76	14,460	48	13	5(1)

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
ミズナラ	42	9
クリ	2	1
ハウチワカエデ	2	2
ヤマモミジ	2	2
アオダモ	1	1
総計	51	15

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
チシマザサ	19	0.34298	30.0	102	1
クマイザサ	19	0.11053	18.8	52	1
ハクウンボク	5	0.01183	1.2	37	2
ヒメカンスゲ	13	0.00732	4.4	15	0
サワシバ	6	0.00417	0.5	20	1



伊達市南東部の牛舎川沿いの落葉広葉樹林に設定している。周辺にはトドマツ人工林や河川があり、それぞれ隣接している。ミズナラが優占し、エゾヤマザクラなどが混生する。亜高木層や低木層にはサワシバがまとまって生える。直近の SPUE は 0.1 と低い、調査時に聞いた近所の住民の話によるとエゾシカの群れが頻繁に出没しているということである。下枝がある立木は前回の 68 本から 48 に減少し、食痕率は 27% で、一部に樹皮剥ぎも観察された。

稚樹は前回並みの 51 本が確認され、食痕率は 41% だった。林床はチシマザサとクマイザサが混じり、食痕率は 10% だった。その他ではハクウンボクやヒメカンスゲなどが生育する。

IB-25 の結果概要

地区名：IB-W

2144 林班た小班

2012 年 7 月 26 日/2019 年 8 月 30 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		緩斜面	北西	1	2	2012 年 -	累積 2.7	なし
				1	2	2017 年 0	累積 2.4	糞
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	79 /200 m ²	42.4 m ² /ha	63/200 m ² 食痕:3 5%			35 /200 m ²	- /74 0%(0%)	
	64 /200 m ²	45.8 m ² /ha	33/200 m ² 食痕:7 21%(0%)			18 /200 m ²	1 /63 2%(2%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²
	11 /200 m ²	2 /11 18%			21	99%・215・0%		116 ・ 2.18
	0 /200 m ²	- /0 -%			15	100%・227・0%		112.6 ・ 2.31

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
ナナカマド	19	4,637	5		
アオダモ	11	1,385	9	4	
ダケカンバ	1	1,082			
ミヤマハンノキ	12	534	6	1	
ハリギリ	1	460			
総計	64	9,160	33	7	1

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
----	----	-------------

なし

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
チシマザサ	20	2.2633	99.5	227	0
シラネワラビ	10	0.03434	9.9	34	0
ツタウルシ	11	0.00477	1.9	22	1
ハウチワカエデ	2	0.00138	0.3	32	0
イワガラミ	4	0.00092	0.5	18	0



壮瞥東部、オロフレ峠下の標高 720m 付近の落葉広葉樹林に設定している。ナナカマドが優占し、アオダモやダケカンバなどが混生する。直近の SPUE は 0 だが調査区内でシカの新しい糞が確認され、累積値は 2.4 となっている。下枝がある立木は前回の 63 本から 33 本にほぼ半減し、食痕率は 21%となっていた。また、樹皮剥ぎは 1 本に見られた。

稚樹は前回ヒロハツリバナやハウチワカエデなど 11 本あったが、今回は確認されなかった。林床は高さ 2m を超すチシマザサが著しく密生し、シカの食痕は見られなかった。その他には不嗜好植物のシラネワラビ、ツタウルシなどが生育する。

IB-27 の結果概要 地区名：IB-N 2084 林班ろ小班 2012 年 7 月 27 日/2019 年 9 月 5 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林		緩斜面	北北西	1 1	2 2	2012 年 - 2017 年 0	累積 1.5 累積 2.3	糞・足跡・シカ道・姿 糞	
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	121 /200 m ²	41.5 m ² /ha	30/200 m ² 食痕:9 30%			13 /200 m ²	- /32 0%(0%)		
	82 /200 m ²	42.4 m ² /ha	4/200 m ² 食痕:1 25% (0%)			3 /200 m ²	8 /21 38% (38%)		
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²	
	0 /200 m ²	- /0 -%			13	92%・143・70%		97 ・ 1.39	
	0 /200 m ²	- /0 -%			9	90%・150・25%		91.1 ・ 1.37	

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
ダケカンバ	61	7,474			1
ナナカマド	20	917	4	1	7
ミズキ	1	97			
アオダモ					
アカイタヤ					
総計	82	8,489	4	1	8



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
なし		

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.36288	90.3	150	5
アキタブキ	1	0.00388	0.3	155	0
ツタウルシ	6	0.0006	0.4	17	0
ミヤマシケシダ	3	0.00014	0.1	11	0
ハリブキ	5	0.000	0.1	7	0



大滝地区東部、ホロホロ峠下の標高 630m 付近の落葉広葉樹林に設定している。ダケカンバが優占する二次林で、ナナカマドとミズキが混生する。直近の SPUE は 0 だが調査区内でシカの新しい糞が確認され、累積値は 2.3 となっている。下枝がある立木は前回 30 本あったが、今回は 4 本に激減し、食痕率は 25% だった。また、樹皮剥ぎも多く観察された (38%)。

稚樹は前回と同様、観察されなかった。林床はクマイザサが密生し、シカの食痕率は 25% だった。その他の植物はわずかだった。

IB-30 の結果概要 地区名：IB-N 224 林班れ小班 2012 年 7 月 20 日/2019 年 9 月 5 日調査

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	斜面下部	南西	2 2	2 2	2012 年 - 2017 年 -	累積 3.3 累積 2.2	シカ道 なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	22.5 /200 m ² 20 /200 m ²	33.6 m ² /ha 78.8 m ² /ha	12/200 m ² 食痕:0 0% 5.5/200 m ² 食痕:6 55% (18%)		7 /200 m ² 6 /200 m ²	7/43 16%(0%) 4/38 11%(11%)	
	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
稚樹	30 /200 m ² 18 /200 m ²	— /30 0% 9/18 50%(17%)		33 34	71%・155・ 0% 90%・172・ 0%	112 ・ 1.43 107.6 ・ 1.76	

※数値の上段は 2012 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり	樹皮剥 (本)
ヤチダモ	6	3,553			
ハルニレ	3	3,253	3	2	
オヒョウ	6	3,078	3		1
カラマツ	1	2,499			
ケヤマハンノキ	7	1,257	2	1	1(1)
総計	40	15,767	11	6	4(1)

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
ヤチダモ	11	4
ハウチワカエデ	3	3
ヤマグワ	3	
ハルニレ	1	1
総計	18	8

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.57123	89.0	174	0
アキタブキ	6	0.06633	5.1	99	0
ムカゴイラクサ	4	0.02963	3.1	67	1
ウド	2	0.01863	1.3	143	0
チシマザサ	1	0.014	1.0	140	0



大滝地区北部の落葉広葉樹の二次林に設定している（毎木区は 2 区、計 400m²）。ヤチダモとハルニレ、オヒョウが優占する。直近の SPUE のデータはなく、累積値は 2.2 となっている。下枝がある立木は前回の 12 本から 5.5 本（1 区 200m² 当たり）、食痕率は 55% だった。また、オヒョウなど一部に樹皮剥ぎも観察された（11%）。

稚樹は、前回 30 本あったが（ヤチダモなど）、今回は 18 本に減少し、食痕率は 50% だった。林床はクマイザサが密生し、シカの食痕は観察されなかった。その他の植物ではアキタブキがやや多く観察され、ムカゴイラクサやウドなど高茎草本類が見られた（林縁のため、過去に人為的な攪乱を受けている）。

AST-01 の結果概要 地区名: AST 25 林班い 2 小班 2019 年 8 月 20 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		斜面	西	1	2	2017 年 -	累積 1.7	シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	40 /200 m ²	75.6 m ² /ha	22/200 m ² 食痕:12 55%(50%)			17 /200 m ²	4/31 13%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・総被度・現存量 m ³ /m ²	
	47 /200 m ²	45/47 96%(85%)			42	39%・85・0%	100.2 ・ 0.71	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積の合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
カツラ	6	8,696	4		
トドマツ	9	3,823	6		2
ハリギリ	1	690			
ケヤマハンノキ	2	682			
イタヤカエデ	2	624	1	1	
総計	40	15,115	28	12	4

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
シウリザクラ	45	40
トドマツ	25	
キタコブシ	1	
ヤマモミジ	1	1
総計	72	41

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	14	0.36422	38.8	85.4	0
オシダ	19	0.20631	27.05	67.6	2
サッポロスゲ	13	0.03428	9.9	29.8	1
フッキソウ	18	0.02908	10.35	24.2	0
シウリザクラ	5	0.02199	1.45	118.8	4



津別町の川に接した針広混交林の二次林に設定している。高木層はカツラやトドマツなどからなり、下層にはシウリザクラが優占する。直近の SPUE は記録なしで、累積でも 1.7 と低い。下枝本数は 22 本、小径木本数も 17 本と少なく、食痕率は 55% とかなり高い。夏季の食痕率も 50% と高い。樹皮はぎ率は 13% で新規は見られない。

針葉樹を除く稚樹は、多くがシウリザクラで 47 本あり、ほとんどに食痕が見られる。夏季の食痕率は 85% とかなり高い。林床はクマイザサが約 4 割を占めており、その他の植物では、オシダ、サッポロスゲ、フッキソウなどが見られる。

林内は、ササ類が少ない環境で下枝や小径木の密度が低いことから、すでにシカの影響がかなり蓄積されており、特に夏季の利用が顕著である。

AST-02 の結果概要

地区名：AST 6 林班い3 小班

2019 年 8 月 20 日調査

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡		
針広混交林		斜面		北	1	2	2017 年 2.3		累積 2.6	シカ道	
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満		樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	55 /200 m ²	134.8 m ² /ha		28/200 m ² 食痕:4 14% (7%)			17 /200 m ²		2／48 4% (0%)		
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・総被度・現存量 m ³ /m ²		
	14 /200 m ²	12／14 86%(71%)				44	0.01%・- ・0%		52.1 ・ 0.18		

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面面積の合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
カツラ	10	6,460	8	1	
オヒョウ	2	5,356			
トドマツ	6	4,782	3		
モイワボダイジュ	3	2,905	2		
イタヤカエデ	3	2,437	1	1	
総計	55	26,966	31	4	2

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
シウリザクラ	10	3
トドマツ	10	
エゾマツ	3	
オニグルミ	2	
キタコブシ	1	
総計	27	4

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
フッキソウ	15	0.0836	28.75	29.0	0
ジュウモンジシダ	11	0.05413	10.85	44.1	0
オシダ	3	0.01108	2.25	49.7	2
コンロンソウ	16	0.00956	2.805	30.8	2
ルイヨウボタン	2	0.00458	1.05	60.0	0



津別町の農地と林地の境界部に近い針広混交林の二次林に設定している。高木層はカツラ、オヒョウ、トドマツなどからなり、下層にはカツラやオオバボダイジュの萌芽個体が多い。直近の SPUE は 2.3 と低く、累積でも 2.6 で低い。下枝本数は 28 本、小径木本数も 17 本と少ない。食痕率は 14% と低く、夏季の食痕率も 7% とわずかである。樹皮はぎ率は 4% と少なく、新規は見られない。

針葉樹を除く稚樹は、多くがシウリザクラで 14 本あり、そのほとんどに食痕が見られる。夏季の食痕率は 71% とかなり高い。林床にササ類はほとんど見られず、フッキソウやジュウモンジシダなどが多く占める。

林内は、ササ類がほとんどない環境で下枝や小径木の密度が低いことから、すでにシカの影響が蓄積されており、夏季の利用も多い。

AST-03 の結果概要

地区名：AST 1019 林班い1 小班

2019 年 8 月 20 日調査

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
広葉樹林		斜面		北	1	2	2017 年 1.1	累積 2.6	シカ道	
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満		樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	34 /200 m ²	49.0 m ² /ha		13/200 m ² 食痕 : 10 77% (46%)			6 /200 m ²		3 / 30 10% (0%)	
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・総被度・現存量 m ³ /m ²	
	7 /200 m ²	5 / 7 71% (29%)				41	- % - 0 %		81.4 ・ 0.35	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積の合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
オヒョウ	8	5,455	2	1	3
アズキナシ	2	1,333	1	1	
イタヤカエデ	2	1,123	1		
シウリザクラ	8	449	6	6	
ミズキ	1	387			
総計	34	9,794	17	10	3

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
キタコブシ	4	2
シウリザクラ	3	2
トドマツ	2	
総計	9	4

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
オシダ	19	0.13327	22	53.4	17
ムカゴイラクサ	19	0.05451	15.2	34.4	16
ジュウモンジシダ	11	0.04432	7.9	51.3	0
フッキソウ	20	0.04139	15.7	25.0	0
ヨブスマソウ	13	0.01071	2.155	43.2	3



津別町の川に近い緩斜面にある落葉広葉樹の二次林に設定している。高木層はオヒョウやイタヤカエデなどが優占し、下層にはシウリザクラが多い。直近の SPUE は 1.1.と低く、累積でも 2.6 と低い。下枝本数は 13 本、小径木本数も 6 本と極めて少なく、食痕率は 77%とかなり高い。夏季の食痕率も 46%と高い。樹皮はぎ率は 10%で新規は見られない。

針葉樹を除く稚樹は、キタコブシとシウリザクラのみで 7 本あり、5 本に食痕が見られる。林床にササ類は見られず、オシダやムカゴイラクサが多く占めており、これら 2 種はほとんどの場所で食痕が見られた。

林内は、ササ類がない環境で下枝や小径木や稚樹の密度が極めて低いことから、すでにシカの影響がかなり蓄積されている。

AST-O4 の結果概要

地区名：AST 1078 林班い 4 小班

2019 年 8 月 20 日調査

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡		
広葉樹林		沢沿い斜面		東	1	2	2017 年 2.3		累積 2.6	シカ道	
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満		樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	37 /200 m ²	23.7 m ² /ha		26/200 m ² 食痕:9 35% (23%)			18 /200 m ²		7/37 19% (0%)		
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・総被度・現存量 m ³ /m ²		
	1 /200 m ²	- /1 0%(0%)				39	19%・41・95%		69.3・0.25		

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面面積の合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
カツラ	2	2,403	1		
シナノキ	2	1,304	1	1	
ハシドイ	3	295	3	3	1
サワシバ	19	282	13	4	3
アサダ	4	206	3		
総計	37	4,747	26	9	7

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
トドマツ	8	
オニグルミ	1	
総計	9	

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	0.07715	18.5	40.7	19
フッキソウ	20	0.0642	24.15	25.5	0
コンロンソウ	20	0.0625	12.4	46.6	2
ジュウモンジシダ	5	0.01832	3.8	44.0	0
ヨブスマソウ	5	0.00412	0.95	36.4	0



津別町の川のに近い緩斜面にある落葉広葉樹の二次林に設定している。高木層はカツラやシナノキなどからなり、下層にはサワシバが優占する。直近の SPUE は 2.3 で、累積でも 2.6 と低い。下枝本数は 26 本、小径木本数も 18 本と少なく、食痕率は 35%である。夏季の食痕率は 23%と高い。樹皮はぎ率は 19%で比較的高いが、新規は見られない。

針葉樹を除く稚樹は、オニグルミ 1 本でほとんどない。林床はクマイザサが約 2 割を占めており、食痕率は 95%とほとんどが被食されている。その他の植物では、フッキソウやコンロンソウなどが優占する。

稚樹の少なさやササの被食の状況などから、林内はすでにシカの影響がかなり蓄積された状態であると考えられる。

AST-05 の結果概要 地区名：AST 1093 林班ち小班 2019 年 8 月 19 日調査

林相		地形		方位		毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
広葉樹林		平坦				1	2	2017 年 1.1	累積 2.6	なし	
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満		樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	50 /200 m ²	70.7 m ² /ha		27/200 m ² 食痕:7 26% (22%)			18 /200 m ²		6／45 13%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・総被度・現存量 m ³ /m ²		
	23 /200 m ²	14／23 61%(61%)				50	-％・- 0%		73.5 ・ 0.27		

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積の合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
シナノキ	5	6,306	2	1	
ハルニレ	2	3,055	1	1	
イタヤカエデ	12	1,171	7	2	
モイワボダイジュ	5	1,049	3	3	
ハリギリ	1	763			
総計	50	14,134	29	7	6

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
シウリザクラ	12	12
キタコブシ	9	
トドマツ	5	
オニグルミ	1	
ヤマモミジ	1	1
総計	28	13

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
オシダ	16	0.10214	17.1	58.3	8
フッキソウ	19	0.06457	25.35	23.5	0
サップロスゲ	15	0.02643	8.155	24.5	2
サラシナショウマ	8	0.02286	4.75	41.3	0
トガスグリ	8	0.01526	4.65	28.6	0



津別町の農地に隣接した緩斜面にある落葉広葉樹の二次林に設定している。高木層はシナノキやハルニレ、イタヤカエデなどが優占し、下層にはイタヤカエデやシナノキが多い。直近の SPUE は 1.1.と低く、累積でも 2.6 と低い。下枝本数は 27 本、小径木本数も 18 本で、食痕率は 26%となっている。夏季の食痕率は 22%と全体に比べて高い。樹皮はぎ率は 13%で新規は見られない。

針葉樹を除く稚樹は、キタコブシとシウリザクラなど 23 本あり、食痕率は 61%と高い。夏季食痕率も 61%と食痕全てに夏季のものが見られた。林床にササ類は見られず、オシダやフッキソウが多く占めており、オシダは食痕率が 50%と高かった。

林内は、ササ類が少ない環境で稚樹密度が低いことから、すでにシカの影響がかなり蓄積されており、特に夏季の利用も多い。

AST-06 の結果概要

地区名：AST 1180 林班た小班

2019 年 8 月 19 日調査

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林		斜面(尾根)		東	1	2	2017 年 1.9		累積 3.5	シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満		樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	21 /200 m ²	65.8 m ² /ha	10/200 m ² 食痕:8 40% (25%)			12 /200 m ²		9/33 27% (0%)		
稚樹	本数密度	食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・総被度・現存量 m ³ /m ²		
	59 /200 m ²	58/59 98%(98%)			30	39%・56 ・80%		71.4 ・ 0.37		

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面の合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり (本)	樹皮剥 (本)
トドマツ	5	4,173	2		1
エゾマツ	3	2,838	2		
オヒョウ	5	2,355	1		
ヤチダモ	2	1,802			
イタヤカエデ	3	577	2		1
総計	42	13,152	24	8	9

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり (本)
シウリザクラ	57	53
トドマツ	2	
オニグルミ	1	
オヒョウ	1	1
総計	61	54

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.23145	39.05	55.8	16
エゾイラクサ	8	0.02884	4.005	57.0	3
ヨブスマソウ	9	0.01692	2.015	62.6	0
コンロンソウ	11	0.01598	3.305	38.0	0
エゾスグリ	7	0.01556	3.95	32.9	0



津別町の川に面した針広混交林の二次林に設定している。高木層はトドマツ、エゾマツ、オヒョウなどからなり、下層にはシウリザクラが優占する。直近の SPUE は 1.9 と低く、累積では 3.5 とやや高くなる。下枝本数は 10 本、小径木本数も 12 本と少なく、食痕率は 40% と高い。夏季の食痕率は 27% である。樹皮はぎ率は 27% と高いが、新規は見られない。

針葉樹を除く稚樹は、多くがシウリザクラで 53 本あり、ほとんどに食痕が見られる。夏季の食痕率も 98% とほとんどに見られた。林床はクマイザサが約 4 割を占めており、食痕率は 80% とかなり高かった。その他の植物では、エゾイラクサやヨブスマソウなどが見られる。

林内は、ササ類が少ない環境で下枝や小径木の密度が低いことから、すでにシカの影響がかなり蓄積されている。稚樹やササの食痕が多く、現在も強い採餌圧がかかっていると言える。